

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
接骨院・整形外科で勤務経験のある専科教員による運動器の解剖・生理学について講義形式で授業を行う											
〔到達目標〕											
柔道整復師の業務に特に関連性の高い運動器（骨・筋・関節）についての解剖学・生理学について学び、柔道整復学の学習に必要な運動器の解剖学についての知識を習得することを目指す。											
〔使用教材、参考文献等〕											
解剖学（医歯薬出版） 生理学（南江堂）						〔準備学習・時間外学習〕					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 骨格系(解剖学)総論					解剖学・医学用語について理解する					
2	骨格系総論(解剖学) 骨について					骨の基本的構造について理解し説明ができる					
3	骨格系総論(解剖学) 骨の連結 各論 脊柱について					脊柱の構造を理解し説明できる					
4	骨格系各論(解剖学) 胸郭の骨(胸骨、肋骨)について					胸郭の骨の構造について理解し説明できる					
5	骨格系各論(解剖学) 上肢帯の骨(肩甲骨、鎖骨)について					上肢帯の骨の構造について理解し説明できる					
6	骨格系各論(解剖学) 自由上肢骨(上腕骨、橈骨・尺骨)について					自由上肢骨の構造について理解し説明できる					
7	骨格系各論(解剖学) 手部の骨、上肢の関節について					手部の骨と上肢の関節の構造について理解し説明できる					
8	骨格系各論(解剖学) 下肢帯の骨(寛骨)について					下肢帯の骨の構造について理解し説明できる					
9	骨格系各論(解剖学) 自由下肢骨(大腿骨、脛骨、腓骨)について					自由下肢骨の構造について理解し説明できる					
10	骨格系各論(解剖学) 足部の骨について					足部の骨の構造について理解し説明できる					
11	骨格系各論(解剖学) 下肢の関節について					下肢の関節の構造について理解し説明できる					
12	骨格系各論(解剖学) 頭蓋の骨について					頭蓋の骨の構造について理解し説明できる					
13	骨格系各論(解剖学) 頭蓋の骨について					頭蓋の骨の構造について理解し説明できる					
14	骨の生理(生理学P133～138)					骨の生理学について理解し説明できる					
15	期末試験					骨の解剖・生理学について理解度を測る					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
基本的に毎授業確認テストを行い、期末試験との合計で評価する。 確認テスト50点/期末試験50点の合計100点で評価を行う。											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 伊藤 春雄			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
生理学1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を解剖学的構造を踏まえて講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。											
〔到達目標〕 人体の恒常性を維持するために必要な神経系の構造と機能について理解する。また、神経系と密接な感覚器の構造と機能について理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 生理学(南江堂)、解剖学(南江堂)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	ガイダンス					人体の構造・機能についての大観を知る。					
2	消化器系 ① 総論、口・口腔					消化器の概要、口・口腔の構造を理解する。					
3	消化器系 ② 咽頭、食道、胃					咽頭、食道、胃の構造を理解する。					
4	消化器系 ③ 小腸、大腸					小腸と大腸の構造を理解する。					
5	消化器系 ④ 肝臓、胆嚢(胆道)					肝臓と胆嚢の構造、胆汁の流路を理解する。					
6	消化器系 ⑤ 脾臓、腹膜					脾臓の構造、腹膜に包まれる器官と包まれない器官を理解する。					
7	消化と吸収①					消化管壁の微細構造と消化管運動(蠕動運動)について理解する。					
8	消化と吸収② 中間試験					消化液分泌の仕組みと消化酵素について理解する。					
9	消化と吸収③					消化管ホルモンの機能について理解する。					
10	消化と吸収④					肝臓の機能、各栄養素の吸収の仕組みについて理解する。					
11	栄養と代謝①					生体に必要な栄養素、各栄養素の構成を理解する。					
12	栄養と代謝②					ミネラル、ビタミンの役割と欠乏症を理解する。					
13	栄養と代謝③					エネルギー代謝の仕組みについて理解する。					
14	栄養と代謝④					栄養素の代謝について理解する。					
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 教科書に基づいた資料と教科書による授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース : 柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 石野 竜平			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
生理学2									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞-組織-器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能を学修する。									
〔到達目標〕									
医療従事者として柔道整復師が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学改訂第4版					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	細胞の構造と機能				人体の細胞の基本的な機能と働きについて理解する。				
2	拡散・浸透・ろ過、受動輸送と能動輸送				物質の移動の仕組みを理解する				
3	血液の生理学:血液の役割、血液の組成				血液の様々な役割について理解する。また、血液の成分を理解する。				
4	免疫機能、血液型				血液の成分の中でも、特に免疫に関与する血液成分について理解を深める。				
5	血液凝固				血液の成分の中でも、特に止血に関する血液成分や、その仕組みについて理解を深める。				
6	体液の生理学:体液の区分と水バランス、体液のイオン組成、体液の恒常性を維持するしくみ				体液の区分、イオン組成、ホメオスタシスを維持する仕組みについて理解する。				
7	循環の生理学:心臓の機能、心筋の基本的性質				心臓の構造、役割について知り、その基本的な性質についての理解を深める。				
8	確認テスト								
9	心電図				心電図の波形と成分を知る。また、その誘導法を理解することができる。				
10	不整脈、心臓のポンプ機能				不整脈について知る。また、心臓の収縮時の心内圧と容積の変化について理解する。				
11	血管系:各血管の構造と働き				血管の種類とその構造と役割の違いを理解する。				
12	血管系:血圧、リンパ管系				血圧に関する基本的な用語を理解する。また、測定法を知る。さらに、リンパ管系の走行を知る。				
13	循環の調節				循環の調節に関する器官や受容器を知る。また、循環の調節機構について理解する。				
14	局所循環				冠循環、脳循環、肺循環、皮膚循環、骨格筋の循環について理解する。				
15	期末試験								
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。小テストは適宜実施するが、科目評価へ含まない。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じて配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。				

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								高橋 顕三			
スポーツトレーナー基礎1				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保健体育教員免許と柔道整復師の免許を有し、整形外科で勤務し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。											
〔到達目標〕											
柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。											
〔使用教材、参考文献等〕 教員作成の冊子・配布プリント 柔道整復学・理論編 解剖学						〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしてくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業概要の説明					今後勉強する概要について理解し、全体像を把握する。					
2	全身の骨の数					全身の骨の数について知る。 代表的な骨の名称について知る。					
3	からだに関する用語1					からだに関する医学的用語を知り、理解する。					
4	からだに関する用語2					からだに関する医学的用語の理解を深め、正しく書けるようになる。					
5	柔道整復理論の用語					柔道整復師の業務範囲について知る。 柔道整復師の業務に関する用語を理解する。					
6	身体の断面・方向					身体の断面に関する用語を知る。 身体の断面上での運動に関する用語を知る。					
7	骨の名称:脊椎・胸郭					椎骨や、胸郭を構成する骨の名称知り、正しく書けるようになる。					
8	復習					復習を行う。					
9	骨の名称:上肢1					上肢帯骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
10	骨の名称:上肢2					自由上肢に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
11	骨の名称:下肢1					下肢帯骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
12	骨の名称:下肢					自由下肢骨に分類される骨を知り、それらの骨の名称を知る。また、正しく書けるようになる。					
13	骨格筋1					頭部・体幹に存在する筋の名称と位置を知る。 また、正しく書けるようになる。					
14	骨格筋2					上肢・下肢に存在する筋の名称と位置を知る。 また、正しく書けるようになる。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 小関孝男・豊島公			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道7段を持ち、青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。											
〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかりと覚え、基本動作を身に付ける。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	授業の流れの説明 柔道衣の名称と着用の仕方、礼法、準備体操					柔道の授業の全体像を把握できる。また、柔道着の正しい着用ができるようになる。					
2	礼法と受身 礼法(立礼・坐礼)、準備運動の手順・後受身					立礼と座礼を理解し、正しい礼法ができる。また、怪我をしないための後受身を習得する。					
3	礼法と受身 横受身・前受身					怪我をしないための横受身と前受身を習得する。					
4	礼法と受身 前方回転受身(説明)					怪我をしないための前方回転受身を習得する。					
5	礼法と受身 前方回転受身(個人練習)					前方回転受身の個人練習を行い、きれいな受身が取れるようになる。					
6	礼法と受身 前方回転受身(グループ学習)					前方回転受身のグループ練習を行うことで、お互いの受身で不十分な箇所を指摘しあえる。					
7	まとめ 試験前のポイント説明					ここまでの総復習をし、技術を習得する。					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	形(浮落の技のみ)と寝技(袈裟固めと防御) 実演して全体動作					浮落の動きを理解し、実際にできるようになる。 袈裟固を習得する。					
10	形(背負投の技のみ)と寝技(上四方固と防御) 実演して全体動作					背負投げの動きを理解し、実際にできるようになる。 上四方固の形を習得する。					
11	形(浮落立ち回り)と寝技(横四方固と防御) 実演して全体動作					浮落をきれいな形でできるようになる。 横四方固を習得する。					
12	形(背負投立ち回り)と寝技(縦四方固めと防御) 実演して全体動作					背負投をきれいな形でできるようになる。 縦四方固を習得する。					
13	形(浮落試験方式)と寝技(肩固と防御) 実演して全体動作					浮落の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。肩固を習得する。					
14	形(背負投試験方式)と寝技(後袈裟固と防御) 実演して全体動作					背負投の形を一連の流れで行い、不十分な部分を把握する。後固を習得する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員 熊澤 真理子			
授業科目名	衛生学・公衆衛生学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。

〔到達目標〕

国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 鈴木庄亮・小川正行・横山和仁・黒沢美智子・竹内一夫・谷川武 著

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	1章 公衆衛生学とは / 2章 健康の概念	公衆衛生学の意義、健康の定義やアプローチ等を理解する
2	人口統計 / 3章 予防の概念	人口静態・動態統計と主な指標、予防の3相5段階について知る
3	集団検診とスクリーニング / 4章 感染症の概要	集団検診とスクリーニングの意義・特徴、感染症の基礎知識や成立の3条件について知る
4	ウイルス感染症・細菌感染症・その他の感染症・院内感染	様々な感染症の特徴について知る。また院内感染の諸問題について理解する
5	感染症の予防対策(感染症法による類型と届け出制、等)	感染症の予防の原則は3条件への対策であることとその内容について知る
6	5章 消毒	消毒・滅菌等の定義とその方法について知る
7	6章 環境衛生(環境保健)の概要/地球環境/環境の把握・評価	環境の分類、環境と人との関係性、地球環境問題、環境の分析法等について知る
8	環境要因	主な物理的・化学的・生物的環境要因について知る
9	公害 / 空気の衛生 / 環境への行政的な取り組み 等	空気の正常・異常成分、環境への政策や管理、最近の環境問題について知る
10	7章 生活環境;水・住居・食品衛生	水に関する環境、住居環境、食中毒について知る
11	食品衛生活動・食品に関する法律とその内容 / 廃棄物処理	食の安全に関する行政施策やそのための法律と内容について知る。また、廃棄物の種類や処理法について知る
12	母子保健の意義・指標	母子保健の意義、用語、諸指標について知る
13	母子保健施策	市町村や都道府県が実施する母子保健施策について知る。
14	前期の振り返り / 試験について	前期を振り返り、期末試験に備える
15	期末試験解説	テストにより理解度を測り、習得できていないところを把握し、知識を定着させる

〔評価について〕

講義内容についての小テスト実施、そのうちの4回分(40点満点)を評価対象とする / 期末試験(60点満点) 評価対象の小テスト;第2回、5回、9回、12回

〔特記事項〕

適宜、プリント配布

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		三浦 千栄	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
柔道整復学・基礎1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。											
〔到達目標〕 柔道整復学の総論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 第7版					〔準備学習・時間外学習〕 予め教科書を読み予習をしてくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	人体に加わる力 損傷時に加わる力①					人体に加わる力の語句とその意味を理解する。 損傷時に加わる力の種類を理解する。					
2	損傷時に加わる力② 骨の形態と機能					損傷時の力に影響を与える要素を理解する。 骨の基本的解剖と役割を理解する。					
3	骨の損傷①					骨折の定義を理解する。 骨折の性状による分類を理解する。					
4	骨の損傷②					骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方を理解する。					
5	骨の損傷③					骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方の理解を深める。					
6	骨の損傷④					骨折には様々な分類がある。様々な分類による分け方と呼び方の理解を深め、正しく分類分けできるようになる。					
7	問題演習					損傷時に加わる力、骨の損傷に関する問題演習を実施、自身の習熟度を確認する。					
8	骨折の症状					骨折の全身症状と局所症状を理解する。					
9	骨折の合併症①					骨折の併発症と続発症を理解する。					
10	骨折の合併症②					骨折の併発症と続発症を理解し、どのような症状が出るのかを理解する。					
11	骨折の合併症③					骨折の後遺症について知る。					
12	骨折の合併症④					骨折の後遺症について知り、どのような症状が出るか理解する。					
13	小児骨折・高齢者骨折の特徴 骨折の癒合日数					年齢層によって注意しなければならない骨折の症状と骨癒合日数を理解する。					
14	骨折の治癒過程					骨折の治癒過程と、骨折治癒に影響を与える要因を理解する。					
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は確認テストと期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	瑞泉 誠		
								時間数(単位)	30(2)	授業回数
柔道整復学・基礎2										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
接骨院での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。										
〔到達目標〕										
柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 (南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	関節の損傷 関節の構造と機能					関節損傷に関する基本用語を知る。 関節の構造と、機能・形状による分類を理解する。				
2	関節の損傷・軟骨組織					関節軟骨の組成と、損傷時の特徴を理解する。				
3	関節の損傷・関節包、滑液、靱帯、関節円板、滑液包、関節唇、血管、神経					関節包、滑液、靱帯、関節円板、滑液包、関節唇、血管、神経の役割と損傷時の特徴を理解する。				
4	関節損傷の分類、関節構成組織損傷①					関節損傷について理解し、関節を構成する組織の損傷についてそれぞれの特徴を理解する。				
5	関節構成組織損傷②					関節損傷について理解し、関節を構成する組織の損傷についてそれぞれの特徴を理解する。				
6	脱臼の定義と概説、発生頻度、分類①					脱臼の定義を理解し、捻挫との違いを知る。				
7	脱臼の分類②					どのような分類があるか理解する。				
8	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	脱臼の症状					脱臼の固有症状を理解し、鑑別ができるようになる。				
10	脱臼の合併症・整復障害					脱臼の合併症と、その症状について理解し、鑑別できるようにする。また、整復障害となるものについて理解する。				
11	筋の損傷①					筋の構造と機能について理解し、筋損傷が発生する要因や症状について理解する。				
12	筋の損傷② 腱の損傷①					筋損傷の分類、症状、治癒機序について理解する。また、腱の構造と機能について理解し、腱損傷が発生する要因や症状について理解する。				
13	腱の損傷② 末梢神経の損傷①					腱損傷の分類、治癒機序について理解する。また、末梢神経の機能と構造について理解する。				
14	末梢神経の損傷②					末梢神経損傷が発生する要因や症状について理解する。また、治癒機序について理解する。				
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は小テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員		小関 孝男	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
柔道整復学・基礎3											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。											
〔到達目標〕											
柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(南江堂) 必要に応じプリントを配布する					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	頭部・顔面骨折(1)					頭部骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。					
2	頭部・顔面骨折(2)					顔面骨折の発生機序、症状、治療法、後遺症を理解し、記憶する。					
3	顎関節脱臼(1)					脱臼の分類と前方脱臼について理解する。					
4	復習					習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
5	顎関節脱臼(2)					整復法と側方、後方脱臼について理解する。					
6	頭部、顔面の軟部組織損傷					概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
7	頸部の損傷(1)					頸椎の機能解剖と頸部損傷の概要について理解する。					
8	頸部の損傷(2)					頸椎骨折の発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
9	復習					習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
10	頸部の損傷(3)					頸椎脱臼の発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
11	頸部の軟部組織損傷					概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
12	頸部の注意すべき疾患(1)					軟部組織損傷との鑑別診断で重要な疾患の概要を理解する。					
13	頸部の注意すべき疾患(2)					軟部組織損傷との鑑別診断で重要な疾患の概要を理解する。					
14	総復習					ここまでの内容の理解を深める。					
15	単位認定試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 三浦 千栄			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復実技・基礎1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、包帯法と固定学の基礎知識と技術を指導する。包帯法は柔道整復師として絶対的に必要な基本的技術であり、他業種に負けない独自の技術である。そのため、自主練習に励み、1年間のうちにその基礎を培って欲しい。											
〔到達目標〕 上肢と下肢の基本包帯法の習得を目指す。また実践を通じて包帯法の留意点や応用方法を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・実技編 包帯固定法(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	包帯固定学 概説					包帯固定学の基礎的な目的や範囲、肢位、固定材料について理解する。					
2	巻き方					基礎、基本包帯法を理解する。					
3	基本包帯固定法1					手関節から肘関節までの包帯固定法を習得する。					
4	基本包帯固定法2					肘関節から肩関節までの包帯固定法を習得する。					
5	基本包帯固定法3					前腕部から手指までの包帯固定法を習得する。					
6	基本包帯固定法4					頭部の包帯固定法を習得する。					
7	総合復習1					これまでの包帯法を復習し基礎の習得をする。					
8	総合復習2					スピードアップをしより完成度を高める。					
9	基本包帯固定法5					三角筋の使い方と上肢以外の使用方法、固定法を習得する。					
10	基本包帯固定法6					下肢の股関節から大腿部までの基本包帯法を習得する。					
11	基本包帯固定法7					下肢の膝関節周囲の基本包帯法を習得する。					
12	基本包帯固定法8					下腿部から足関節までの基本包帯法を習得する。					
13	基本包帯固定法9					足趾の基本包帯法を習得する。					
14	ギプス固定					膝関節のギプス固定法を習得する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 小関 孝男・田中 幸導			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
柔道整復実技・基礎2											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、骨折、脱臼のその症状と状態に準じた固定、包帯法を指導する。 将来、臨床に出た際に必ず必要になる技術を学生のうちからしっかりと学び、有資格者としての準備をして欲しい。 技術の反復練習を積極的に行ってもらおう。											
〔到達目標〕											
柔道整復師として一番の強みであり、仕事となる各骨折、脱臼に対する整復法、固定法を理解し習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)						〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	冠名包帯1					デゾー包帯の習得をする。					
2	冠名包帯2					デゾー包帯の習得をする。					
3	冠名包帯3					ウェルポー包帯の習得をする。					
4	復習					冠名包帯法の復習を行い、習得する。					
5	冠名包帯4					ウェルポー包帯の習得をする。					
6	冠名包帯5					ジュール包帯の習得をする。					
7	鎖骨骨折整復固定1					鎖骨骨折の整復法を習得する。					
8	鎖骨骨折整復固定2					副子を利用した包帯固定、8字帯を習得する。					
9	復習					理解できていないところを把握し、習得する。					
10	鎖骨骨折整復固定3					鎖骨の絆創膏固定法について習得する。					
11	肩鎖関節脱臼整復固定1					肩鎖関節脱臼の整復法を習得する。					
12	肩鎖関節脱臼整復固定2					肩鎖関節脱臼の副子を使用した固定法、テーピング固定法について習得する。					
13	冠名包帯法復習					冠名包帯法の復習を行い、習得する。					
14	復習					鎖骨の絆創膏固定法について習得する。					
15	試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テストと期末テストの合計で評価する。 評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。						〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員	
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	小関 孝男	
キャリアデザイン講座								時間数 (単位)	30 (2)
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
長年、整形外科で勤務し、整形外科疾患や外傷に対するリハビリテーションを行ってきた柔道整復師専科教員が、個人ワークやグループワークを取り入れながら、社会人として必要な資質やコミュニケーション能力を身につける。また、講演や演習を通じて社会人や医療人について理解してほしい。また、業界との連携教育を行い、職業観や勤労観を養う。									
〔到達目標〕									
社会人、柔道整復師になることに対する意欲を高め、卒業後の自己を構想できるようになる。また、将来に限らず学生生活をさらに充実させるきっかけをつくる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
					社会人としてのマナーをあらかじめ調べておくことが望ましい。				
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)			
1	導入研修Ⅰ 柔道整復師の成り立ちと資格の意義					柔道整復師の歴史を知り、資格の業務範囲等を理解する。			
2	導入研修Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅰ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術を知る。			
3	導入教育Ⅰ 柔道整復師としての使命と必要な知識・技術Ⅱ					柔道整復師として現場に出たときに必要な知識に触れ、また、その技術に関する理解を深める。			
4	導入研修Ⅰ 柔道整復師の職域について					柔道整復師の業務範囲についての理解を深める。			
5	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、お互いのことについて知る。			
6	導入研修Ⅰ 柔道整復師になるために必要な相互支援関係構築、コンセンサスゲーム、コミュニケーションゲーム等					クラスメイトとのコミュニケーションを取り、相互理解を深める。			
7	導入研修Ⅰ 目標設定(目標としての柔道整復師像)					将来の自分の柔道整復師としての目標を立て、卒業後の将来像を想像する。			
8	外部研修 柔道整復師の各職域に必要な知識・技術					柔道整復師が活躍できる、様々な現場に必要な知識、技術を知ることができる。			
9	外部研修 在学中のキャリア設計と卒後のキャリア開発について					卒業後の具体的な目標を立て、それを実現するために在学中にすべきことを計画する。			
10	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(治療院)					治療院で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。			
11	外部研修 柔道整復師に必要な課題解決方法(トレーナー他)					トレーナーとしてスポーツ現場で働いた時に起こり得る事象を考え、それを解決するための方法を見つけ出すことができる。			
12	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					卒業して社会人となった時に必要なマナーを知り、それを実践できるようにする。			
13	導入研修Ⅱ 柔道整復師に必要な社会人としてのマナー・接遇					柔道整復師として働いた時に必要な接遇を知り、それを実践できるようにする。			
14	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。			
15	導入研修Ⅲ 講演:医療のプロとなる心がまえ					講演を聴講し、医療人になるための心構えを知り、そのために在学中にすべきことを知る。			
〔評価について〕 出席 レポート提出					〔特記事項〕				

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 小関 孝男			
授業科目名						時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
総合基礎		必修	必修	実技授業	講義				
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科、接骨院、トレーナー現場経験のある専任教員により、臨床に必要な能力とは何かを学生に問いかけ気付かせることで相互支援関係を学生間で育み、コミュニケーション能力やチームワークなどの向上を図る。また臨床の経験を伝えることで職業理解や学習意欲の向上に取り組み、医療従事者としての素養を養う。									
〔到達目標〕 クラス内での相互支援関係の構築、職業理解に伴う医療従事者としての心構え、学習意欲の向上を図る。									
〔使用教材、参考文献等〕 学科で配布された全ての教科書									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション			1年間の流れを知り、自分の行動計画を立てる。 1年間の目標を作成する。					
2	自己紹介・他己紹介			自己理解を深め、相手に知ってもらう。相手を紹介することで相互の理解を深める。					
3	レクリエーション			アイスブレイク、グループ学習を行い、円滑なコミュニケーションが取れるようになる。					
4	レクリエーション			実技も含めたグループワークを行い、より円滑な人間関係を築く。					
5	課題解決能力 演習1			1つの課題に対して、グループでディスカッションを行い、グループで課題解決をする方法を知る。					
6	課題解決能力 演習2			前回同様、課題を提示し、それを時間内で解決する練習を行う。					
7	課題解決能力 (確認試験)			各グループに課題を提示し、時間内に解決案を提示しレポート形式で作成する。レポートは個々に作成する。					
8	医療倫理			講師の臨床経験を通じて医療人としての心構えを学ぶ。感想としてレポートを作成させる。					
9	柔道整復師に対する職業理解			柔道整復師の仕事を詳しくし、資格の魅力について学ぶ。感想としてレポートを作成させる。					
10	スポーツトレーナーに対する職業理解			スポーツトレーナーの仕事を詳しくし、資格の魅力について学ぶ。感想としてレポートを作成させる。					
11	医療人としてのケーススタディ1			柔道整復師としてどういった行動を取ることが適切か、ケーススタディを通じて考える。					
12	医療人としてのケーススタディ2			スポーツトレーナーとしてどういった行動を取ることが適切か、ケーススタディを通じて考える。					
13	臨床での判断			応急処置の必要な現場では、今出来ることとして、何をすべきか、何を求められるのか知る。					
14	目標の再設定と学習計画			今までの講義を踏まえて、目標達成のために必要なスモールステップの作成、それに伴う学習計画を立てる。					
15	発表			クラス内で自分の行動目標と最終目標、将来像を発表する。					
〔評価について〕 評価は確認試験、期末試験の合計点で行う。確認試験はグループでの課題解決をレポート形式で提出(40点)、期末試験は発表形式(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 授業ごとに自分の発言、行動に振り返りをもち、より円滑なチームワークに必要なものは何かを考える。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	柔道整復演習1	必修	必修	実技授業	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数
								15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復師の現状や将来性、臨床現場での治療技術について教授、体験をさせる。柔道整復師の施術を受けたことがないまま入学してくる学生も多い中、学生が持つイメージ像と実状とのギャップを埋め、職業理解・業務内容の理解を演習形式で促す。								
〔到達目標〕 柔道整復師の業務内容を理解する。資格取得した後の具体的な業務や将来設計をイメージ、そのために必要となるスキルを学生自身が考え、そのための計画が立てられることを目標とする。								
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編								
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション	この授業の目的・目標を理解する。						
2	柔道整復師の業務理解1	柔道整復師が取扱う外傷とはどのようなものか理解する。						
3	柔道整復師の業務理解2	柔道整復師が扱う運動器(骨・関節・筋・腱・靱帯)の大きな構造と機能を理解する。						
4	柔道整復師の業務理解3	柔道整復師が扱う外傷(骨折・脱臼・軟部組織損傷)の定義を理解する。						
5	柔道整復師の可能性1	柔道整復師の資格を活かして活躍することができる現場(接骨院、整形外科、高齢者施設、スポーツ現場など)を理解する。						
6	柔道整復師の可能性2	柔道整復師の多様な働き方を知る。						
7	柔道整復師の技術体験1	接骨院グループと連携を行い、授業内にて実際の施術・技術体験をすることで職業理解を深める。						
8	柔道整復師の技術体験2	接骨院グループと連携を行い、授業内にて実際の施術・技術体験をすることで職業理解を深める。						
9	柔道整復師の技術体験3	接骨院グループと連携を行い、授業内にて実際の施術・技術体験をすることで職業理解を深める。						
10	確認テスト	これまでの理解度を確認する。						
11	柔道整復師としてのキャリアマップ	将来的に柔道整復師としてどのようなキャリアステップがあるのかを理解する。						
12	働くこととライフステージ	自身が柔道整復師としてキャリアを重ねていくと共にライフステージについてのイメージを持つことができる。						
13	柔道整復師・トレーナーとしての人間性	人から求められる人材とはどのような人間性なのかを考え、言語化することが出来る。						
14	発表準備	試験での発表に向けて、今までの内容を統合し、まとめることが出来る。						
15	発表	クラス内で柔道整復師の業務、自分の将来のキャリアステップ、またそこから考えられるライフステージについて発表する。						
〔評価について〕		〔特記事項〕						
評価は確認試験、期末試験の合計点で行う。確認試験は筆記試験(40点)、期末試験は発表形式(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。								

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 小関孝男			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
臨床前施術試験等									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、臨床実習に望む前段階として、患者との良好な信頼関係を構築するための技術を教授する。									
〔到達目標〕 臨床の現場に出るにあたり必要なスキルを身に付けることを目的とする。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション				臨床実習の概要について理解し、全体像を把握する。				
2	医療面接①				患者を問診するにあたって必要になる知識を理解し、説明が出来る。				
3	傷害と評価(肩関節)				肩関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
4	可動域測定				測定法や関節可動域表示が評価・診断書等に活用されることを理解する。				
5	医療面接②				問診の仕方、問診表を理解し、書くことが出来る。				
6	傷害と評価(肘関節)				肘関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
7	医療面接③				問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。				
8	傷害と評価(腰)				腰部の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
9	傷害と評価(膝関節1)				膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
10	傷害と評価(膝関節2)				膝関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
11	医療面接④				問診の仕方、問診表の書き方を実際のロールプレイングを通じて理解し、実践できる。				
12	傷害と評価(足関節)				足関節の重要な疾患の概要や評価を理解し、実践することが出来る。				
13	復習				問診から評価までの流れを理解し、実践できる。				
14	復習				問診から評価までの流れを理解し、実践できる。				
15	単位認定試験 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。				

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
解剖学1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
接骨院・整形外科で勤務経験のある専科教員による運動器の解剖・生理学について講義形式で授業を行う											
〔到達目標〕											
柔道整復師の業務に特に関連性の高い運動器（骨・筋・関節）についての解剖学・生理学について学び、柔道整復学の学習に必要な運動器の解剖学についての知識を習得することを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
解剖学（医歯薬出版） 生理学（南江堂）											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	筋系(解剖学)総論					筋について基本的構造を理解する。					
2	筋系各論(解剖学) 頭部の筋、頸部の筋					頭部・頸部の筋の構造について理解し説明できる					
3	筋系各論(解剖学) 胸部の筋、腹部の筋					胸部・腹部の筋の構造について理解し説明できる					
4	筋系各論(解剖学) 背部の筋					背部の筋の構造について理解し説明できる					
5	筋系各論(解剖学) 上肢の筋					上腕部の筋の構造について理解し説明できる					
6	筋系各論(解剖学) 前腕の筋					前腕の筋の構造について理解し説明できる					
7	筋系各論(解剖学) 前腕の筋					前腕の筋の構造について理解し説明できる					
8	筋系各論(解剖学) 手部の筋					手部の筋の構造について理解し説明できる					
9	筋系各論(解剖学) 下肢帯の筋(内寛骨筋、外寛骨筋)					骨盤の筋の構造について理解し説明できる					
10	筋系各論(解剖学) 大腿の筋					大腿部の筋の構造について理解し説明できる					
11	筋系各論 大腿の筋					大腿部の筋の構造について理解し説明できる					
12	筋系各論(解剖学) 下腿の筋					下腿の筋の構造について理解し説明できる					
13	筋系各論(解剖学) 足部の筋					足部の筋の構造について理解し説明できる					
14	筋の生理学(生理学P12～21))					筋の生理学について理解し説明できる					
15	期末試験					筋の解剖・生理学について理解度を測る					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
基本的に毎授業確認テストを行い、期末試験との合計で評価する。 確認テスト50点/期末試験50点の合計100点で評価を行う。											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			伊藤 春雄		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15		
生理学I													
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)													
専門分野の教員要件を有し、長年にわたり医療系専門学校の教育に貢献してきた教員が、柔道整復師として必要な人体の生理現象を解剖学的構造を踏まえて講義する。柔道整復師は患者に医療行為を行うため、医療行為による効果やどのような現象が体の中で起っているのかを理解して患者に説明する必要がある。人体の構造と機能を患者にわかりやすく伝えられるようになるために、基本的な事項を着実に習得してもらいたい。													
〔到達目標〕													
人体の恒常性を維持するために必要な神経系の構造と機能について理解する。また、神経系と密接な感覚器の構造と機能について理解する。													
〔使用教材、参考文献等〕													
生理学(南江堂)、解剖学(南江堂)													
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
1	呼吸器解剖①					呼吸器の全体像を把握する。鼻～咽頭～喉頭の構造を理解する。							
2	呼吸器解剖②					気管～気管支～肺の構造を理解する。							
3	呼吸器解剖③					縦隔・胸膜・胸郭の構造を理解する。							
4	呼吸の生理①					換気の仕組み、換気量・肺胞換気量・死腔量について理解する。							
5	呼吸の生理②					ガス交換と酸素・二酸化炭素の運搬について理解する。							
6	呼吸の生理③					呼吸周期の調節、化学受容器を理解する。							
7	呼吸器系総復習					呼吸器解剖、呼吸の仕組みを復習し、呼吸全体のメカニズムについて説明できる。							
8	確認テスト					呼吸器について自身の理解度を把握し、出来ていない部分は復習する。							
9	体温とその調節①					体温の生理的変動と熱産生の仕組みを理解する。							
10	体温とその調節②					熱放散の物理的・生理学的仕組みを理解する。							
11	体温とその調節③					体温調節のメカニズムを理解する。							
12	体温とその調節④					気候順化、発熱とうつ熱の違いを理解する。							
13	体温総復習					体温とその調節の仕組みについて復習し、全体像を説明できるようになる。							
14	後期総復習					呼吸器、体温調節の総復習を行い理解度を深める。							
15	期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 資料中心による授業を行なう。								

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員			石野 竜平		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15		
高齢者・競技者の生理的特徴													
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)													
長年にわたり、専門学校で生理学の教育に力をいれ、柔道整復師として必要な体の生理学及び、生物学の理解をより深めていく。													
〔到達目標〕													
人体を理解するために必要な生物学、生理学の基礎を理解する。													
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕							
生理学(南江堂)、必要に応じプリントを配布する						専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をすること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。							
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)							
1	心臓の解剖学的特徴					心臓の解剖学的特徴を理解できる							
2	心臓の解剖学的特徴2					心臓の解剖学的特徴を理解できる							
3	脈管の解剖					頭頸部の動脈を理解できる							
4	脈管の解剖2					上肢、体幹の動脈を理解できる							
5	脈管の解剖3					下肢の動脈を理解できる							
6	脈管の解剖4					静脈、リンパ管を理解できる							
7	脈管の解剖5					静脈、リンパ管を理解できる							
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
9	腎臓の生理(1)					腎臓のつくり働きを理解できる							
10	腎臓の生理(2)					尿生成の調節機構を理解できる							
11	腎臓の生理(3)					糸球体濾過を理解できる							
12	腎臓の生理(4)					排尿反射を理解できる							
13	腎臓の解剖1					腎臓の解剖学特徴を理解する							
14	腎臓の解剖2					尿管、膀胱の解剖学的特徴を理解する							
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕						〔特記事項〕							
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。						毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前コース	学年	1	開講区分	後期	担当教員 高橋 顕三			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
スポーツトレーナー基礎1									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

保健体育教員免許と柔道整復師の免許を有し、整形外科で勤務し、トレーニング指導やリハビリテーションの経験を持つ教員が、柔道整復学の基盤である骨と関節の構造について授業を行い、その用語と細部を理解する授業を行う。専門用語が多くなるため、しっかりと復習を行い医学用語を習得してほしい。

〔到達目標〕

柔道整復学(骨折・脱臼・軟部組織損傷等)の習得には人体構造の正確な理解が必要不可欠である。ここでは人体の構造としくみを関節・体表解剖を中心に学習する。

〔使用教材、参考文献等〕

教員作成の冊子・配布プリント
柔道整復学・理論編
解剖学

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしてくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	期末テストの解答・解説	前期期末テストの問題について理解する。
2	一般的な関節の構造	関節の構造の基礎を理解する。
3	各関節の構造1	上肢の関節の構造を理解する。
4	各関節の構造2	体幹と脊椎の関節の構造を理解する。
5	各関節の構造3	骨盤と股関節の関節の構造を理解する。
6	各関節の構造4	下肢の関節の構造を理解する。
7	これまでの復習	各関節の構造について今まで学習した範囲を理解できる。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	中間テストの解答・解説	中間テストの誤っている問題を理解する。
10	身体のランドマーク1	頭部のランドマークを理解する。
11	身体のランドマーク2	上肢のランドマークを理解する。
12	身体のランドマーク3	体幹のランドマークを理解する。
13	身体のランドマーク4	骨盤と下肢のランドマークを理解する。
14	身体のランドマーク5	今までに学習したランドマークの復習を行い、理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。
授業ごとに小テストを行う。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	後期	担当教員 小関 孝男・豊島 公			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
柔道1											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 講道館柔道7段を持ち、青少年の育成および柔道普及に尽力している柔道整復師専科教員が、授業を通じて柔道の精神と健康な体作りを指導する。 授業の中だけでなく、日々の生活の中にも柔道の精神を頭において行動して欲しい。											
〔到達目標〕 柔道の礼法および精力善用、自他共栄の精神を身に付けさせる。相手の人格を尊重し受身をしっかり覚え、基本動作を身に付ける。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道着					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	型(浮腰)					実演して全体動作を習得する。					
2	型(払腰)					実演して全体動作を習得する。					
3	型(送足払)					実演して全体動作を習得する。					
4	型(支釣込腰)					実演して全体動作を習得する。					
5	形確認、寝技					浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
6	形確認、寝技					浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
7	技術復習					浮腰、払腰、送足払、支釣込足の復習と寝技を習得する。					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	形(肩車)と技(大内刈と小内刈)					実演をして全体練習を行う、技の崩し方と体さばきの説明をし習得する。					
10	形(釣込腰)と技(膝車)					実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
11	形(内股)と技(膝車)					実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
12	形確認					実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
13	形確認					実演をして全体練習を行う、打ち込みと約束練習を行い習得する。					
14	期末試験予備テスト					礼法と受身の確認、復習を行い習得する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	後期	担当教員 熊澤 真理子			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
衛生学・公衆衛生学									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

学生にとって到達目標である国家試験合格のために必要な知識習得を主な目的とした授業展開を行う。また、「衛生学・公衆衛生学」は、健康の保持増進や生活の質の向上の大切さを学ぶ科目であるため、それらの知識を活用し臨床における「健康へのアプローチ」を構築することを学生に望む。そのため、口腔衛生学会認定医として自身が学び実践する諸事項・諸事象を踏まえた「医療人として人々に貢献する」ということを意識できるような授業を心がけ実施する。

〔到達目標〕

国家試験合格のための知識の習得とともに、現場に出たときに医療従事者として身に着けているべき考え方や教養、倫理観等の習得を目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

衛生学・公衆衛生学 (株)南江堂 発行 鈴木庄亮 他 著

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	9章 学校保健の意義 / 学校保健の対象 / 関係職員	学校保健の特徴や対象、関係する常勤・非常勤職員について知る
2	学校保健の領域;保健教育・保健管理・組織活動 / 10章 産業保健の意義 / 労働衛生3管理 / メンタルヘルスケア	保健教育・保健管理の内容と管轄する法律について知る また、産業保健の概要について知る
3	業務上疾病の発生状況 / 職業性疾病	発生が多い業務上疾病について、また職業性疾病の主なものについて知る
4	産業保健における健康診断と事後措置 / THP / 11章 成人・高齢者保健の意義・特徴 / 生活習慣病(悪性新生物)	3つの健康診断と事後措置、THPについて知る 成人・高齢者の健康状態と悪性新生物について知る
5	主な生活習慣病 / 高齢者福祉・介護保険/認知症施策	主な生活習慣病の特徴や現状について知る 高齢者や認知症の者への対策について知る
6	12章 精神保健の意義と法律の変遷 / 精神保健活動と医療形態	精神保健福祉法と障害者総合支援法の概要について知る 精神保健の地域での活動拠点、医療について知る
7	様々な精神障害 / 障害者への法律。施策、概念	精神障害や心の不健康状態の特徴、障害者全般に対する法律や施策、バリアフリー等の概念について知る
8	13章 地域保健の概要・進め方 / 地域保健に関する法律とその内容/WHOの概要	地域社会の捉え方、PDCAサイクル、地域保健法の概要、医療法による医療計画の記載事項、WHOについて知る
9	国際保健 / 14章 衛生行政の体系 / 地域保健法による行政機構 等	国際的な取り決め、国際協力について知る/一般衛生行政等の体系と責務、医療法の目的等、について知る
10	医療法による医療施設の定義 / 医療従事者の業務・名称独占 / 医療保険制度 / 公費(負担)医療/国民医療費	病院等の定義、業務・名称独占資格、医療保険制度の種類・仕組み、公費医療、国民医療費の現状について知る
11	国民健康づくり / 法令の定義 / 医の倫理 / 医療事故とリスクマネジメント	健康づくり対策の変遷と現在、法令等の定義について知る / 医の倫理観 等について知る
12	15章 疫学の概要 / 疫学の指標・方法	疫学の特徴、調査方法等について知る
13	誤差とバイアス、交絡要因 / 因果関係 / 人年法 / ICD	疫学調査での誤差、因果関係の判定基準、人年法、ICDについて知る
14	後期の振り返り / 試験について	後期を振り返り、期末試験に備える
15	期末試験解説	習得した知識の確認を行い、公衆衛生学の意義を改めて考えるための一助とする

〔評価について〕

講義内容について的小テスト実施、そのうちの4回分(40点満点)を評価対象とする / 期末試験(60点満点) 評価対象の小テスト;第2回、5回、10回、12回

〔特記事項〕

適宜、プリント配布

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員		小関 孝男	
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
外傷の保存療法											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床で必要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。											
〔到達目標〕 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編（医歯薬出版） 配布資料					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	診察					施術録の扱いについて理解する。					
2	治療法1					骨折、脱臼の整復法について理解する。					
3	治療法2					軟部組織損傷の初期処置について理解する。					
4	治療法3					固定法について理解する。					
5	治療法4					後療法である手技療法について理解する。					
6	治療法5					後療法である運動療法について理解する。					
7	治療法6					後療法である物理療法(電気療法)について理解する。					
8	単位認定試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数
物理療法機器の取り扱い										8
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 柔道整復師の資格を持ち、接骨院の臨床現場で、施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、診察の手順と骨折、脱臼の整復法、固定法の基本を学び、物理療法機器を体験してその取り扱いの講義を行う。臨床で必要な知識や技術、経験談も踏まえ、より実践的な講義となる。										
〔到達目標〕 柔道整復師として診察から整復、固定、後療法まで一連の流れを考察し、外傷の保存的治療法を学ぶ。										
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編(医歯薬出版) 配布資料					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	治療法(後療法)1					物理療法(温熱療法、伝導熱療法)を理解する。				
2	治療法(後療法)2					物理療法(輻射熱療法、変換熱療法)を理解する。				
3	治療法(後療法)3					物理療法(光線療法)を理解する。				
4	治療法(後療法)4					物理療法(寒冷療法)を理解する。				
5	治療法(後療法)5					物理療法(牽引療法)を理解する。				
6	治療法					指導管理について理解をする。				
7	外傷予防					外傷予防を段階別に(1～3段階)指導する方法を理解する。				
8	単位認定試験 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	後期	担当教員 三浦 千栄			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
柔道整復学・基礎1									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師の資格を持ち、臨床現場で経験を積み医療系学校の教育に貢献してきた柔道整復師専科教員が柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。

〔到達目標〕

柔道整復学の総論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編 第6版

〔準備学習・時間外学習〕

予め教科書を読み予習をしてくる。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	肩甲骨の骨折①	肩甲骨の機能解剖を理解する。 肩甲骨体部骨折を理解する。
2	肩甲骨の骨折②	肩甲骨上・下角骨折、関節窩骨折を理解する。
3	上腕骨近位部骨折①	肩関節の機能解剖を理解する。 上腕骨骨頭骨折を理解する。
4	上腕骨近位部骨折②	上腕骨解剖頸骨折、大結節単独骨折、小結節単独骨折を理解する。
5	上腕骨近位部骨折③	上腕骨外科頸骨折を理解する。
6	上腕骨近位部骨折④	上腕骨近位骨端線離開を理解する。
7	問題演習	肩甲骨骨折、上腕骨近位部骨折に関する問題演習を行い、自身の習熟度を確認する。
8	肩関節脱臼①	肩関節脱臼の分類と、肩関節前方脱臼を理解する。
9	肩関節脱臼②	肩関節後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼を理解する。
10	肩関節脱臼③	反復性肩関節脱臼を理解する。
11	肩関節部の軟部組織損傷①	筋腱の損傷(腱板断裂・上腕二頭筋長頭腱損傷)を理解する。
12	肩関節部の軟部組織損傷②	スポーツ損傷(ベネット損傷・SLAP損傷)を理解する。
13	肩関節部の軟部組織損傷③	スポーツ損傷(肩峰下インピンジメント症候群・リトルリーガー肩)を理解する。
14	肩関節部の軟部組織損傷④	不安定症(動揺性肩関節)、末梢神経障害、その他疾患を理解する。
15	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていない箇所を把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は確認テスト(40点)と期末テスト(60点)の100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名								瑞泉 誠			
柔道整復学・基礎2				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。											
〔到達目標〕											
柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。											
〔使用教材、参考文献等〕											
柔道整復学・理論編											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	骨盤部の損傷1					骨盤の機能解剖と骨盤骨単独骨折について理解する。					
2	骨盤部の損傷2					骨盤骨単独骨折と骨盤輪骨折について理解する。					
3	大腿部頸部骨折1					大腿骨骨頭骨折について理解する。					
4	大腿部頸部骨折2					大腿骨頸部骨折の内転型、外転型でのそれぞれの症状などについて理解する。					
5	大腿部頸部骨折3					大腿骨転子部骨折について理解する。					
6	股関節脱臼1					股関節後方脱臼について理解する。					
7	股関節脱臼2					股関節前方脱臼について理解する。					
8	小テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	股関節の軟部組織損傷1					鼠径部痛症候群、関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群について理解する。					
10	股関節の軟部組織損傷2					股関節拘縮、注意すべき疾患について理解する。					
11	大腿部の損傷1					概要と発生機序、分類、症状について理解する。					
12	大腿部の損傷2					治療法、整復、固定法について理解する。					
13	大腿部の損傷3					大腿部の軟部組織損傷について理解する。					
14	復習					繰り返しの内容確認で定着をしていく。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員 小関 孝男			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
柔道整復学・基礎3									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、柔道整復学に関わる基本的概念・知識を教授する。									
〔到達目標〕 柔道整復学の各論を学び、外傷や障害に対する理解を深める。 傷害の程度によっては、患者に対しより重い責任を持つ事になり、そのためにも正しい知識を持つ事が重要となる。 傷病者に対して自信をもって処置を行うことを目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 (医歯薬出版) 柔道整復学・実技編 (医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習をしておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	肋骨骨折1			概要と発生機序について理解する。					
2	肋骨骨折2			分類と合併症、予後について理解する。					
3	胸骨骨折			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
4	胸腰椎骨折、脱臼の概要			脊椎の骨の機能解剖について理解する。					
5	胸椎骨折、脱臼			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
6	胸背部の軟部組織損傷			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
7	腰椎骨折、脱臼			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
8	腰部の軟部組織損傷			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
9	頭部、顔面の損傷1			頭蓋骨の機能解剖と頭蓋骨骨折について理解する。					
10	頭部、顔面の損傷2			顔面の筋、骨と顔面骨折について理解する。					
11	顎関節脱臼1			脱臼の分類と前方脱臼について理解する。					
12	顎関節脱臼2			整復法と側方、後方脱臼について理解する。					
13	頭部、顔面の軟部組織損傷			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
14	顎関節症			概要、発生機序、分類、症状、合併症、治療法、予後について理解する。					
15	単位認定試験			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。授業ごとに小テストを行う。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行う。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	柔道整復師科 午前・午後	学年	1	開講区分	後期	担当教員 三浦 千栄			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復実技・基礎1									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

柔道整復師および日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格を持ち、接骨院やスポーツ現場での臨床現場で、怪我や負傷した選手の施術・治療・予防指導に尽力してきた柔道整復師専科教員が、テーピングの基礎知識と技術を指導する。テーピングはどの現場においても必要な技術となるため自主練習に励み、1年間のうちその基礎を養ってほしい。

〔到達目標〕

柔道整復師として、臨床に必要なテーピングの基礎知識とその技術を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

柔道整復学・理論編 (医歯薬出版)

柔道整復学・実技編 (医歯薬出版) テーピングのポイントはこれだ！

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	概要・注意事項・持ち方、切り方、貼り方	テーピングの基本知識を理解し、基本を習得する。
2	下腿、大腿部のテーピング	肉ばなれのテーピングを習得する。
3	手関節・指関節のテーピング	手関節・指の各関節のテープを習得する。
4	肘関節のテーピング	内側側副靱帯、肘の伸展制限のテープを習得する。
5	肩関節のテーピング	肩鎖関節、肩関節前方脱臼のテープを習得する。
6	1～5回までの復習	きれいに早く巻けるようにする。
7	膝関節のテーピング1	内側側副靱帯のテープを習得する。
8	膝関節のテーピング2	前十字靱帯のテープを習得する。
9	足関節のテーピング1	足関節のアンダーラップを習得する。
10	足関節のテーピング2	足関節のホースシューまで習得する。
11	足関節のテーピング3	足関節を全てホワイトで巻くことを習得する。
12	足関節のテーピング4	きれいに巻けるように練習する。
13	足関節のテーピング5	5分以内で仕上げられるよう練習する。
14	復習	これまでのテーピングの巻き方を復習し、正確に巻けるようにする。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は実技試験で行う。
試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		柔道整復師科 午前・午後		学年	1	開講区分	後期	担当教員 小関孝男・田中幸導			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
柔道整復実技・基礎2											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床経験を持つ柔道整復師専科教員が、骨折、脱臼のその症状と状態に準じた固定、包帯法を指導する。 将来、臨床に出た際に必ず必要になる技術を学生のうちからしっかりと学び、有資格者としての準備をして欲しい。 技術の反復練習を積極的に行ってもらおう。											
〔到達目標〕 柔道整復師として一番の強みであり、仕事となる各骨折、脱臼に対する整復法、固定法を理解し習得する。											
〔使用教材、参考文献等〕 柔道整復学・理論編 包帯固定学(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 初めて行う技術であるため、授業で行ったことを反復練習することによる、基礎的な技術の復習を行い、確実に身につけることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	上腕骨外科頸骨折整復固定1					上腕骨外科頸骨折外転型の整復法について習得する。					
2	上腕骨外科頸骨折整復固定2					上腕骨外科頸骨折内転型の整復法について習得する。					
3	上腕骨外科頸骨折整復固定3					上腕骨外科頸骨折外転型の固定法について習得する。					
4	上腕骨外科頸骨折整復固定4					上腕骨外科頸骨折内転型の固定法について習得する。					
5	肋骨骨折固定法1					絆創膏固定法について習得する。					
6	肋骨骨折固定法2					さらしを使用した固定法を習得する。					
7	肋骨骨折固定法3					肋骨骨折の固定において、的確な固定ができる。					
8	肩関節前方脱臼整復固定1					肩関節前方脱臼の整復法を習得する。					
9	肩関節前方脱臼整復固定2					肩関節前方脱臼の固定法を習得する。					
10	肩関節前方脱臼整復固定3					肩関節前方脱臼において、的確な固定ができる。					
11	上腕骨骨幹部骨折整復固定1					上腕骨骨幹部骨折の整復法について習得する。					
12	上腕骨骨幹部骨折整復固定2					上腕骨骨幹部骨折の整復法について習得する。					
13	上腕骨骨幹部骨折整復固定3					上腕骨骨幹部骨折の固定法について習得する。					
14	上腕骨骨幹部骨折整復固定4					上腕骨骨幹部骨折の固定法について習得する。					
15	単位認定試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は実技試験で行う。 試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。 授業ごとに小テストを行う。					〔特記事項〕 授業内だけでなく自主練習により技術向上に努めること。 難しい技術などがあれば授業内で担当教員に積極的にアドバイスをもらうこと。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名						1年生担任			
人体構造基礎1		必修	必修	実技授業	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科、接骨院、トレーナー現場経験のある専任教員により、人体の構造について総合的に学び、人体についての概要を学ぶ。概要を学ぶことで、より詳細で高度な解剖学・生理学の内容を理解するための土台作りを丁寧に行う。									
〔到達目標〕 解剖学と生理学の概要を理解し、全体像を把握する。骨筋の基本構造を学び人体の運動について理解する。									
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学(医歯薬出版)、解剖学(医歯薬出版)									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション			解剖学、生理学とは何かを知り、どのような内容を学ぶのか概要理解をする。					
2	解剖・生理 人体概要			どこにどの器官があるのか、場所と簡単な機能を理解をする。					
3	解剖・生理 循環器			心臓、血管について知り、どのような働きがあるか学ぶ。					
4	解剖・生理 消化器・吸収			消化器とその働きについて知り、どのようにして人体が栄養を受けているのかを知る。					
5	解剖・生理 呼吸器			呼吸器とその働きについて知り、どのように酸素と二酸化炭素を吸収・排出しているか知る。					
6	解剖・生理 泌尿器			泌尿器とその働きについて知り、どのように尿を生成、排出しているのかを知る。					
7	解剖・生理 神経系、内分泌系			神経と内分泌について知り、人体はどのように制御、統制されているのかを知る。					
8	解剖・生理 生殖器			生殖器について知り、どのような働き、仕組みがあるのかを知る。					
9	確認試験 (筆記試験)			今までの内容について筆記試験にて記憶状態の確認を行う。					
10	骨・筋概要			骨と筋の概要を知り、役割や動きの基礎を知る。					
11	上肢の筋 解剖・作用			上肢の筋の起始、停止、作用について知る。なるべく立体で説明を行い、イメージを持ってもらう。					
12	下肢の筋 解剖・作用			下肢の筋の起始、停止、作用について知る。なるべく立体で説明を行い、イメージを持ってもらう。					
13	体幹の筋 解剖・作用			体幹の筋の起始、停止、作用について知る。なるべく立体で説明を行い、イメージを持ってもらう。					
14	頭部・頸部の筋 解剖・作用			頭部・頸部の筋の起始、停止、作用について知る。なるべく立体で説明を行い、イメージを持ってもらう。					
15	期末試験 (筆記試験)			今までの内容について筆記試験にて記憶状態の確認を行う。					
〔評価について〕 評価は確認試験、期末試験の合計点で行う。 確認試験は筆記試験(50点)、期末試験も筆記試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 柔道整復師科 午前コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員 中村亮・大西陽一・小柳伸行			
授業科目名		必修	必修	実技授業	実習	時間数 (単位)	45 (1)	授業回数	15
臨床実習1									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 整形外科、接骨院、トレーナー現場経験のある柔道整復師専科教員による臨床実習を通して現場を知り、医療従事者としての素養を身に付けることを目的とする。接骨院業務の基本を身に付ける。									
〔到達目標〕 接骨院業務の基本的スキルを身に付ける。									
〔使用教材、参考文献等〕 解剖学(医歯薬出版)、解剖学(医歯薬出版)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション、院内の見学、物品の位置の確認、患者誘導(呼び込み)、ベッドメイク				物品の位置が分かる ベッドメイクができる				
2	物理療法				低周波治療器の装着・取り外しができる				
3	受付(保険の種類)/院内業務				基本的な受付業務、患者誘導ができる				
4	受付(保険の種類)/院内業務				基本的な受付業務、患者誘導ができる				
5	固定(包帯/テーピング)				各関節に対して基本的な包帯固定ができる				
6	固定(包帯/テーピング)				各関節に対して基本的なテーピング固定ができる				
7	触診				主要なランドマークに対する触診ができる				
8	徒手療法				上半身への基本的な徒手療法ができる				
9	徒手療法				下半身への基本的徒手療法ができる				
10	ストレッチ				基本的なストレッチができる。				
11	可動域測定				大関節の可動域測定ができる。				
12	医療面接				問診表の項目に沿って医療面接を実施できる。				
13	医療面接				問診表の項目に沿って医療面接を実施できる。				
14	治療計画				患者モデルにあわせて初期治療計画を作成できる。				
15	試験								
〔評価について〕 評価は期末試験、提出物(デイリーノート等)、実習態度等を総合的に判断し、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕					